

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート
基準日 2021年4月30日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)		
	ファンド	ベンチマーク			
過去1ヵ月間	-1.56	-2.97	第10期	2017/1/25	300
過去3ヵ月間	5.71	5.81	第11期	2018/1/25	350
過去6ヵ月間	13.85	19.12	第12期	2019/1/25	300
過去1年間	29.39	31.79	第13期	2020/1/27	350
過去3年間	12.41	7.66	第14期	2021/1/25	350
設定来	249.79	65.59	設定来累計		2,200

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【資産別構成】

資産種類	比率(%)
株式	95.7
投資信託証券	1.0
その他株式関連証券	0.0
現金その他	3.3

※比率は対純資産総額

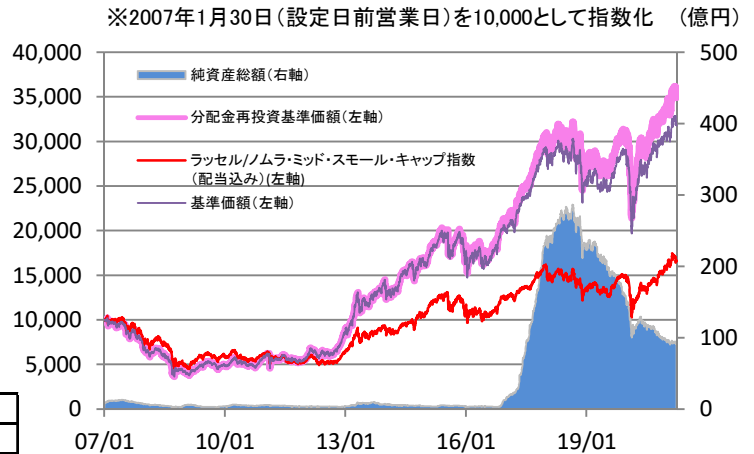
【株式市場別構成】

市場	比率(%)
東証1部	91.1
ジャスダック	2.4
東証マザーズ	2.2
その他市場	0.0
株式組入比率	95.7

※比率は対純資産総額

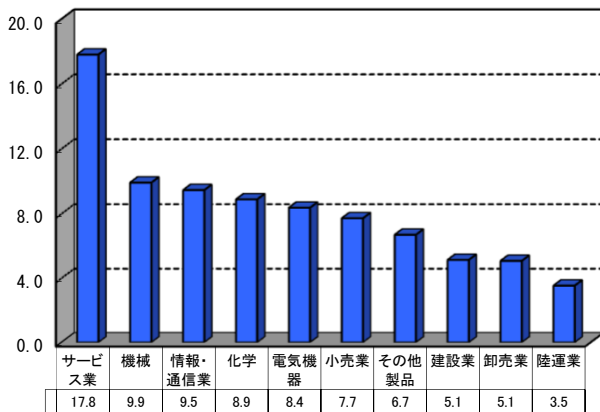
【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
31,796 円	31,701 円	90.94 億円



※当ファンドのベンチマークは、ラッセル/ノムラ・ミッド・スモール・キャップ指数(配当込)ですが、当ファンドはベンチマークに連動するものではありません。※基準価額は、信託報酬等控除後です。※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【株式業種別構成 上位10業種(%)】



※比率は対純資産総額

【組入有価証券 上位10銘柄】

(銘柄総数:63銘柄)

	銘柄	市場	業種	比率(%)
1	前田工織	東1	その他製品	4.0
2	センコーグループホールディングス	東1	陸運業	3.5
3	三洋化成工業	東1	化学	2.8
4	日本光電工業	東1	電気機器	2.7
5	シークス	東1	卸売業	2.6
6	九電工	東1	建設業	2.5
7	ライク	東1	サービス業	2.4
8	セプテーニ・ホールディングス	JQ	サービス業	2.4
9	アルヒ	東1	その他金融業	2.4
10	シグマックス	東1	サービス業	2.3

※略称は下記の取引市場を指します。 ※比率は対純資産総額
東1: 東証1部、東2: 東証2部、マザーズ: 東証マザーズ、JQ: JASDAQ

※上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は、当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。
※「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド
愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート

基準日 2021年4月30日

【運用担当者のコメント】

◆株式市場の状況

4月の日本株式市場は、月前半は前月後半からの回復ムードを引継ぎ中国経済の回復期待などから、堅調に推移しました。しかしながら、その後は発表された決算において今後の業績予想が市場参加者の期待以下の企業が増加し一部の銘柄が大きく売り込まれたことから、頭の重い展開となりました。月末にかけては長期連休を控え、市場参加者の減少や長期連休中の海外株式市場動向への懸念から売り圧力が高まり、軟調な状況が続きました。

中国景気指標の改善や米中貿易交渉の進展期待から外需関連銘柄が相場を下支えしましたが、日経平均株価が前月末比4.97%上昇したのに対し、TOPIX Small（配当込み）は1.77%の上昇と大型株主体の相場展開で、中小型株市場の流動性は依然として低く、中小型株市場の需給環境に逆風の状況が続いています。

この結果、TOPIX（配当込み）は前月末比1.65%の上昇、当ファンドのベンチマークは同0.89%の上昇となりました。

◆ファンドの運用状況

当月、当ファンドにおいては、好調な2021年5月期第3四半期決算を発表したライクなどが上昇し、一方で2021年2月期決算が減益で嫌気されたヨシムラ・フード・ホールディングスなどが下落しました。

投資行動の観点では、引き続き既保有銘柄の買い増しとともに、株価が上昇し割安感が薄れた銘柄、当初の投資仮説から実態が乖離したと判断した銘柄の売却を行っています。当月の新規投資銘柄はありません。

◆今後の運用方針

新型コロナウイルスの感染再拡大により、再度の緊急事態宣言が発出される事態となっています。この環境にあつて最も厳しい環境に置かれている産業の一つに外食産業が挙げられます。度重なる時短営業要請や席数の削減、二転三転する政府や地方自治体の方針など、未だに先行きを見通すことが難しい状態が続いています。

このような極めて先行き不透明感の高い状態は、投資家が嫌う典型的な環境です。感染状況は依然として予断を許さないばかりか、テレワークの拡がりによる都心人口の変化なども指摘され、業態によっては需要の構造的な減少も懸念されています。このような環境において、どのような投資機会が見いだせるのでしょうか。

第一に想起されるのは、「コロナ禍」が事業機会となった業態や相対的に影響の少ない業態です。デリバリーやオンライン予約は「コロナ禍」が市場拡大の契機となり市場成長が加速したと考えられますし、ロードサイドや住宅街に店舗を有する業態は都市部立地の業態よりも業績悪化が軽微に留まっています。しかし、ここで当ファンドは、より長い時間軸で外食事業の将来を想像しながら投資機会を探っています。言い換えれば、外食企業に対し「新たな環境適応力」という観点で銘柄選別を進めています。

(次ページへ)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組み入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート
基準日 2021年4月30日

(前ページより)

外食産業は約25兆円（日本フードサービス協会調べ）の市場規模を有す大きな市場ですが、人口減少や高齢化、中食市場の拡大などの構造的な環境変化を見ると、更なる拡大余地は乏しいとされています。この飽和市場で、大手企業は積極的な出店により事業拡大を進めてきました。「コロナ禍」前まではインバウンド需要の増加もあり拡大戦略は奏功してきたと言えます。人口集積地域や観光地といった好立地を抑え、新規性のある商品・サービスを提供することで新規顧客の獲得が進んだと考えられるためです。しかし、上記したように「コロナ禍」の中で前提となる環境は一変しました。従来の常識を疑い、事業モデルの抜本的な改革が必要な状況にあると言えます。

当ファンドは環境適応力において、運営の効率化や業態の拡張性の観点に注目しています。運営効率化では費用削減が求められますが、従業員の疲弊を伴うとすれば継続性のない施策となってしまいます。既存のオペレーションを如何にして一段高い水準に昇華させられるかは、経営者の力量に係る要素が多いと感じます。厳しい環境であればあるほど、仕組みだけでなく従業員の士気が重要となりますが、それは先頭で指揮を執る経営者の言動に大きく影響を受けるためです。多忙な中で時間を割いていただく貴重なIR面談の場で、課題認識を把握し視点の共有に努めています。

もう一つの観点は業態の拡張性です。外食産業を単業態と捉えるのではなく、中食や内食産業を含む食産業において事業機会を見出すことは、縮小する市場における成長機会という観点で重要です。このような業態の進化を進められる企業は、社会活動が正常化する局面において過去よりも高い成長を実現できる可能性が高いと考えています。

このような業界の垣根を超えた競争環境の変化は、過去様々な業界で見られてきた現象です。「コロナ禍」は様々な産業に大きな影響を及ぼしていますが、相対的に変化に乏しかった産業においても変革をもたらしていると考えられます。またこれは、広範な領域で調査活動を続けてきたことで、特定の業界慣習に囚われない視点を持ち得たスパークスの強みが生きる領域であると考えています。

先行き不透明感の高い状態にあっても、水面下で進行する変化を捉え魅力的な投資機会の発掘に努めます。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。